



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース38号



平成26年度 催し物

今年度から、新しく始まる催し物もあります。夏休みは子供向けの体験学習が充実しています。

海苔に関するものや親子で楽しめる催し物などご用意して、皆様のご参加をお待ちしております。

開催日		催し物	対象	受付開始日
月	日・曜			
4	12日(土)	海苔つけ体験	どなたでも	3月11日(火)
	20日(日)	海苔つけ体験	どなたでも	
5	3日(土)	「海の畑」上映会	どなたでも	当日先着
	24日(土)	緑のカーテンを編もう	小5以上	4月21日(月)
6	22日(日)	あみあみペットボトルホルダーづくり	小5以上	5月21日(水)
7	21日(祝)	貝がら工作	小学生以下	7月11日(金)
	25日(金)	コースターづくり	小3以上	
	27日(日)	浜辺の生き物探検隊	小3以上	
8	2日(土)	タペストリーをつくろう	小3以上	
	4日(月)	ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう	小3以上	
	7日(木)	自由研究で海苔を調べよう	小3以上	
	9日(土)	フジツボベビーを見てみよう！(2回連続)	小3以上	
16日(土)	小3以上			
	24日(日)	浜辺の生き物探検隊	小3以上	
9	23日(祝)	海苔簀づくり	小3以上	8月21日(木)
10	25日(土)	大森・浜辺のまち探検	小5以上	9月21日(日)
11	9日(日)	海苔簀づくり	小3以上	10月11日(土)
	29日(日)	海苔つけ体験	どなたでも	11月11日(火)
12	7日(日)	海苔つけ体験	どなたでも	11月21日(金)
	20日(土)	海苔つけ体験	どなたでも	
1	10日(土)	海苔つけ体験	どなたでも	12月21日(日)
	25日(日)	海苔つけ体験	どなたでも	
2	8日(日)	海苔つけ体験	どなたでも	1月11日(日)
	28日(土)	海苔つけ体験	どなたでも	
3	7日(土)	海苔つけ体験	どなたでも	2月21日(土)
	15日(日)	海苔つけ体験	どなたでも	

催し物の詳細は、区報およびホームページでお知らせしています。

申込み：区報掲載日の午前9時より電話にて申込受付。土日祝日も受付けています。

申込・問合せ先：大森海苔のふるさと館 電話：03-5471-0333



毎月の催しもの

毎月の催し物の中から、注目の催し物や今年度新しく実施するものなどをご紹介します。

■海苔つけ体験 (10:00~12:00)

一番の人気の催し物です。生海苔から乾し海苔をつくります。ぜひ、ご家族そろってご参加ください。

■緑のカーテンを編もう(13:00~16:00)

海苔網の編み方を応用して、ゴーヤーなどを育てるための緑のカーテンのネットを紐で編みます。

■あみあみペットボトルホルダーづくり (13:00~16:00)

海苔網の編み方を応用して、ペットボトルを持ち歩くホルダーをつくります。

■夏休み体験学習会

夏休みの工作や自由研究などにご活用ください。

*貝がら工作 (10:00~11:30、13:30~15:00)

自然の貝がらを使って工作をします。

*コースターづくり (13:00~15:00)

海苔簀編みを応用しヨシでコースターを作ります。

*浜辺の生き物探検隊 (9:30~12:30 参加費100円)

浜辺の生き物の観察をして、海と私たちの関係を

学びます。東京海洋大学の学生が教えてくれます。

*タペストリーをつくろう (13:00~15:00)

海苔網の編み方を習って、その網に貝殻やビーズ、リボンなどを飾ってタペストリーを作ります。

*ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう

(13:00~16:00 参加費:100円)

海苔をとるためのベカブネ(テンマ)という舟を、本物そっくりペーパークラフトでつくります。

*自由研究で海苔を調べよう (13:00~16:00)

夏休みの自由研究、海苔づくりや海苔の秘密をみんなと一緒に調べましょう。目指せ、海苔博士!

*【新規】フジツボベビーを見てみよう!

(13:00~15:00) 一回目でフジツボの赤ちゃんを育てて、二回目で動く様子を観察します。

■海苔簀(のりす)づくり(13:30~16:00)

ヨシを使って海苔つけの際に欠かせない海苔簀を作ります。手作り海苔簀で、昔と同じ海苔つけ体験ができます。

■大森・浜辺のまち探検

(13:00~16:00 参加費100円)

潮風が感じられる大森地域を歩き、海苔の名残を探しながら、みんなで一緒に大森の魅力を見つけましょう。



ミニ・イベント

ミニイベントは、家族連れでお気軽にご参加いただけます。原則、事前のお申込みは不要です。

主催:NPO法人 海苔のふるさと会

■絵本の読み聞かせ&公園散歩

季節に合わせた絵本の読み聞かせをした後、公園でお花や生き物を探しましょう。主に幼児対象です。

日にち:毎月第四火曜日(7、12月は第三、9月は第五火曜日)

時間:11:00~11:30



■ひまわり・プロジェクト

みんなで館の周りにきれいなひまわりを映かせましょう。ひまわりが成長する様子を見に来てね。

耕しの巻:4月13日(日)

種まきの巻:4月27日(日)、5月4日(日)

水やりの巻:種まきから7月までの毎日(12:00~15:00を除く時間)

種とりの巻:9月13日(土)

※水やり以外は、いずれも13:30~14:30先着順

■季節飾りと工作遊び

季節の行事や節句に合わせて、季節の飾りつけと

工作遊びをします。

カブトづくり:4月26日(土)、5月5日(祝)

七夕飾りづくり:6月28日(土)

貝のおひなさまづくり:2月22日(日)

※いずれも、13:30~15:30(時間内自由参加)また、節句人形や七夕の展示も行います。

■お月見コンサート

3階の展望室にて、満月を愛でながら音楽を楽しみましょう。

日にち:9月7日(日) 時間:17:30~19:00

※小学生以上、要事前申し込み(8月より募集予定)

■その他にも!

*ゴールデンウィーク:のりのり☆クイズ

*夏休み:のり検定(海苔のクイズ)

*毎月1回:花壇の手入れ

(5月、11月には花の植え替え)



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」38号

平成26年4月1日発行

編集・発行 認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報
大森 海苔のふるさと館 ニュース39号

祝 50万人達成！！



平成26年5月25日（日）、開館以来の来館者数が50万人に達しました。初夏を思わせるこの日も家族連れやグループで館内はとても賑わっていました。記念すべき50万人目は、大田区北糞谷在住の原田さん家族でした。原田さんは普段から絵本の読み聞かせや3階の花壇のお世話などに来館しており、ちょうどこの日も家族3人で来館したところでした。

31日には、50万人という節目をお祝いするとともにこれまでの多くの方々の来館に感謝して、記念セレモニーが行なわれました。記念セレモニーでは松原大田区長からの記念品贈呈式を中心に、藤本秀三根氏と秀三根会の皆さんによる大森甚句コンサートも行なわれ、花を添えてくれました。

ふるさと館が開館したのは今から6年前、平成20年4月6日のことです。当日は開館を待ちわびていた人たちで押すな押すなの賑わいでした。その後も、年代や区内外、国籍な



どを問わず、とても多くの人々が訪れて下さっており、毎年の来館者数が8万人を超える、都内でも有数の人気施設となっています。



ふるさと館には、国の重要有形民俗文化財に指定されている貴重な道具類や子どもも楽しく学べる展示をはじめとして、毎月行われている様々な体験型イベント、元海苔生産者の貴重な体験が聞けたり、昔の技術を習うことができるなど、いろいろな魅力があります。しかしながら、何よりの魅力は、普段から利用して下さっている方々、協力して下さる元海苔生産者、はまどの会メンバー、海苔のふるさと会会員、地域の方々など、多くの人たちの想いが集まっていることではないでしょうか。

今回の50万人を機に、これからもより一層多くの方々の想いが集まる、魅力あふれる施設を目指していきたいと思っております。（小山）



はじめまして、天空ガーデン



昨年5月から、来館者の方々と交えて3階の花だんづくりを始めました。来館者の皆様の投票により、その花だんの愛称が、「天空(てんくう)ガーデン」に決まりました。空に近い3階のベランダで、太陽の光をいっぱい浴びながら、季節に合わせた花が咲きみだれ、ふるさと館の憩いの場となっています。

この花だんは、宿根草と一年草を組み合わせたローコスト・ローメンテナンスな花壇です。ほどほどの手入れで、花や緑が次々に入れ替わり美しい姿を見せてくれるので、目にも懐にも優しいのです。



5月の植え替えでは、開花期が長いジニアを中心とした花を植えました。今は宿根草のサルビアや宿根リナリアが見ごろです。

毎月の手入れは、第一または第二水曜日の午後、どなたでもご参加できます。道具は用意しているので、帽子持参でご参加ください。これからの季節、参加者はタイムやローズマリー、ミントなどのハーブの摘み取りもできます。お子さんと一緒に、お友達を誘って、一緒に花壇のお手入れをしましょう。

※作業予定日は、館内の掲示板とWEBにてお知らせします。(マコ)



新職員のごあいさつ

三好 周平

これまでは河童の研究をしており、海苔については門外漢でしたが、この約2ヶ月の間に海苔の魅力にすっかり虜になっております。出身は広島で、海苔といえば味付け海苔のことでしたので、シンプルな焼海苔を非常に新鮮な気持ちで食べています。海苔養殖の歴史やその道具など、かつての大森のことを、より多くの方にお伝えしたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

吉田 野空海 (のぞみ)

大田区生まれ、北区育ちで、海苔は食べるのも見るのも大好きです。自然が好きで趣味は磯散策とシュノーケリングです。大学では藻類(特に珪藻)の勉強をしてきました。専門分野を活かし、日本食である海苔の文化・伝統技術を習得し、継承していきたいと思っております。

皆様のあたたかいご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



臨時休館日

6月16日(月)～20日(金)は、くん蒸のため臨時休館します。

?くん蒸ってなに?

当館に展示している船や海苔の道具は、「国の重要有形民俗文化財」に指定された貴重な文化財です。永く後世に保存するため、道具に付く害虫を殺虫するくん蒸を行います。(マコ)

海苔のふるさと会 会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」39号
平成26年6月1日発行
編集・発行 認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区 平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース40号



浜辺にすむ生き物たち

ふるさと館は、緑と砂浜が広がる、大森ふるさとの浜辺公園の中にあります。身近な自然の生き物と触れあってみませんか？

*大森ふるさとの浜辺公園

大森ふるさとの浜辺公園は海水と淡水がまざり合う汽水域で、魚、海藻、エビやカニ、フジツボ、シジミやアサリなどの貝、クラゲ、鳥など……想像以上に多くの生き物がすんでいます。たとえば、初夏にやってくるコアジサシは、水面近くに泳ぐボラやハゼなどの魚を採ります。勢いよく水中へ飛び込む姿は見ものです！また、『崖の上のポニョ』に出てくるミズクラゲや、広島や宮城で有名なカキも生きています。



*浜辺公園産のアオノリ

意外かもしれませんが、お好み焼きに振りかける「アオノリ」も採れるんですよ。これはボウアオノリやスジアオノリという海藻です。海苔は採れなくなりましたが、海藻は生育しています。



ボウアオノリ

*ふるさと館の魚水槽

ふるさと館に入ると水槽があり、生き物の展示をしています。ほとんどが浜辺公園で採ったもので、子どもたちにも大人気です。日本人になじみの深いウナギもいます。6月に絶滅危惧種に指定されましたが、浜辺公園にも暮らしています。水槽では筒の中に隠れてジッとしていることが多いのですが、もう2年も生きています。



また、シマシマの模様をしているコトヒキは今年の夏から仲間入りしました。ここ数カ月でぐんと大きくなり、立派な体つきになってきました。生き物の成長も観察できるので、じっくりのぞいてみませんか？



(吉田)

*企画展「大森ふるさとの浜辺公園の生き物たち」

ふるさとの浜辺公園は、開園して8年目です。近隣住人の散歩コース、親子連れの磯遊びや浜辺の生き物探し、友達や家族のくつろぎの場など、多くの方々にも楽しめる公園になっています。

公園では、施工前から現在も継続して浜辺の生き物や水質の調査が行われています。10年近い調査によって、海の環境がどのように移り変わってきたのかが明らかになってきました。

その調査結果、標本などを使って、生き物の命を育む豊かな浜辺を紹介する展覧会を行います。

期間：平成26年7月23日(水)～11月16日(日)

会場：2階展示室／観覧無料

ふるさと館で生き物の観察もしちゃおう! ?

ふるさと館では海苔の歴史が学べるだけでなく、いろいろな生き物を観察することもできます。特に夏はベストシーズンです。

*ひまわり

まず皆さんをお迎えするのが、空に向かって元気よく咲いているひまわりの花々です。ゴールデンウィークに来館者の皆さんと一緒に種をまいて、育ててきました。花がお日さまのほうを向いているかどうか確かめてみましょう。



*馬込半白節なりきゅうり

館の入口近くにある緑のカーテンで栽培しているのは珍しいきゅうりです。これは明治30年代から昭和30年ころまで大田区の馬込地区で栽培されていた地域固有のきゅうりです。通称「馬込半白」と呼ばれ、実の茎近くは薄緑色で、先の半分は白くなります。実は普通のきゅうりよりしっかりしているので、漬物に適しています。



*ヨシ

水辺にみられるイネ科の植物であるヨシは、海苔を干すときに使う海苔すの材料にされてきました。地下茎でよく増え、大きなヨシ原をつくります。水につかった地下茎から栄養分を吸収するので、水をきれいにする働きがあります。栽培しているところの水はきれいかな？

*海苔網水槽

1階奥の体験学習室では実際の海苔養殖で使われている網を展示しています。ユラユラしている水中のノリを見る機会はほとんどないので、ぜひよく観察してみてください。普段目にする海苔は、この海藻を細かく刻んで四角い形にしたものです。ノリは本来、夏の間は貝がらの中に潜り込んで過ごしています。



*自然観察区域



ふるさと館前の原っぱの一面は草を刈らないで、生き物が生息できるようにしています。生息環境の種類を増やすだけで、生き物の種類が随分と増えるということがわかります。トンボやバッタ、チョウがたくさんいるので、ぜひ中に入ってみてください。(小山)



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」40号

平成26年8月1日発行
編集・発行 認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347

**海苔のふるさと会
会員募集中!!**

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース41号

海苔の観察事業 ふるさとの浜辺に行って、竹ヒビを見よう

かつて大田区で海辺で見られた海苔づくりの光景を再現して、公園を訪れる多くの人に見てもらおうと、元生産者の皆さんと昔の海苔養殖風景を再現する作業を毎年行っています。今年は10月2日にヒビごさえ作業、10月8日に竹ヒビ建て作業と網の支柱建て作業を行ないました。

1. ヒビごさえ作業(10月2日)

今の海苔養殖では網が使われていますが、それ以前には竹ヒビが使われていました。竹ヒビは竹ぼうきを逆さまにしたようなもので、海底に建ててそこに付いた海苔を採りました。

今年は、昨年使った竹ヒビの枝を整えたり、アゴといって海底から抜けないように竹の根元につけた荒縄を付け直したりしました。



2. 竹ヒビ建て作業と網の支柱建て作業(10月8日)

多くの人に見てもらえるように、浜からすぐのところに竹ヒビと網の支柱を建てました。

竹ヒビは、振り棒という道具を使って海底にかけた穴に差し込みます。波に負けないように斜めに建てるのがコツです。海の中に入った作業なので思ったより大変です。近隣の小学校3年生が訪れ、波打ち際でこの作業の様子を見学し、実際に振り棒で砂浜に穴をあける体験をしました。

網を張るための支柱は、船から水圧ポンプを使って建てました。

小学生が振り棒の体験。重くて全然穴が空かないよ。



3. 今後の予定

今年も千葉県の実業海苔生産者の協力を得て、網に海苔の孢子(種)を付けてもらいました。水温の低下を待って、今回建てた支柱に結び付け海に張り出します。今のところ12月ぐらいになりそうで、年明けには新しい網に張り替えることも予定しています。

大森ふるさとの浜辺公園の海の状況からして、海苔がたくさん育つということはかなり難しいと言わざるを得ませんが、竹ヒビを建てたり、網を張ったりする技術を持っている元生産者の皆さんがいるので、浜にその光景を再現して、多くの方に見てもらいたいと思っています。(小山)



竹ヒビの海苔とり(戦前)

左手に持った櫓(口)で舟を固定させながら、右手で海苔を採ります。干潮の時間に合わせて、カンテラを照らして夜中に海苔を採ることもありました。

海苔のまちの商店

海苔生産をしていたころは、商店もそれぞれ海苔と関わり合いをもっていました。毎年秋に実施しているまち歩きイベントでは、当時を知る方々を訪ねてお話を伺っています。今回は、二つの商店の方からお聞きしたお話を紹介します。

■海苔問屋 守矢武夫商店■

<大森と諏訪>

現在の店主は守矢義衛氏（昭和13年生まれ）。先代の守矢武夫氏が昭和22年に創業しました。

先代は大正13年に10代で信州諏訪から上京、大森の海苔問屋で修行し、独立して現在の問屋を持ちました。諏訪地方では、農閑期に出稼ぎに行くのが普通で、海苔は冬の仕事なので都合がよかったです。そのため、古くから信州諏訪の海苔商人が多く、大森の海苔問屋も諏訪にルーツを持つところが多く存在します。

<問屋と流通>

海苔生産が行われていたころは、生産者の家を一軒一軒回って入札する「庭先入札」でした。生産者が海苔をはがしたところを見計らって入札に回ります。その後、再度回って落札した乾海苔を受け取ります。仕入れの金額と枚数を通帳に記入し、潮合いに代金を清算しました。潮合いは、15日毎に汐が引かず浜の仕事が休みになる日です。

夕方、乾海苔を回収するところを見計らって、今度は仲買問屋が買取りに集まってきました。海苔は、生産者→買付問屋（産地問屋）→仲買問屋→小売問屋→小売店の流れで消費者の手に渡ります。（守矢氏は買付問屋です。）夜が更けた頃、大八車に乾海苔を乗せ、着物に三尺帯姿で日本橋の仲買問屋に納品に行きました。

昭和28年からは、大森漁業協同組合に生産者の海苔を集めて入札する「共同入札」（共販制）が導入されました。海苔の良し悪しを見極める経験が必要な仕事で、「問屋の目利きは10年で一人前」といわれ、父親に厳しく仕込まれました。



大森漁業協同組合の入札



■和菓子屋 餅甚■

<創業>

美原通りに店を構える餅甚は、享保元年創業の老舗和菓子店です。初代の駿河屋甚三郎氏は、静岡の出身で、東海道を行き来する旅人に名物のあべ川餅などの茶屋をやっていたのが始まりです。



現在は10代目店主の福本義一氏（昭和19年生まれ）で、2年後には創業300年を迎えます。

<海苔と和菓子>

8月から9月は漁場を割り振る場割が行われ、組合の船が出たり丁場毎に共同で作業を行ったりします。それが終わると漁場の準備が一段落するので、お酒やお菓子などを用意して、慰労の場が持たれました。

その時には、大森漁業協同組合からあべ川餅の注文が入りました。海苔が網によくくっつく様にと、餅にかけて願掛けの意味もありました。

<旧東海道の変化>

かつては“三原通り”といい、商店が並び夜は夜店が出て、城南随一の商店街でした。冬に地方から海苔の手伝いに来ていたシオトリは、三原通りでお土産を買って帰りました。

お店の周辺は空襲でほとんど焼けたものの、戦後もしばらく夜店は続きました。昭和35年に環七ができたことで、三原通りが南北に分断されてしまい、人の流れが途切れてしまいました。

最近では、跡継ぎがなく残念ながら閉める店も多いです。今は、美原通りの商店街が協力して、景観整備事業を行ったり、汐風まつりを開催したりして、活性化に取り組んでいます。

（五十嵐）



船の底板で作られた古い看板

認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」41号

平成26年11月1日発行

編集・発行 認定特定非営利

活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347

**海苔のふるさと会
会員募集中!!**

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース42号



新年ご挨拶

平林 義正

新年明けましてお芽出とうございます。
 会員の皆様には館発展の為、大変ご尽力頂いておりますこと心から感謝申し上げます。
 一昨年は来館者が四十万人。昨年は五十万人目の親子に、大田区長ご臨席のもと記念品を差し上げ、五月お祝いを行いました。

昨年は本館特色事業「海苔つけ体験学習」がNHKや、新聞で紹介され、又「東京湾大感謝祭」・野島公園の「里地里山フェスティバル」・区の「エコフェスタワンダーランド」等職員が参加し、外部の多くの方々に「ふる里館」を紹介することが出来ました。
 只今、館は新職員三名を迎え来館者にご満足頂ける様、業務に頑張っております。
 本年より「ふる里会」会員証を複製し、皆様にご配布する予定になっております。皆様のお力で会員の数を増してまいりますよう。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

(認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 理事長)



開催中

企画展

「描かれた海苔づくりの風景」
 会期：～平成27年3月15日 (日)
 入館無料



<左>「森ヶ崎 雪後之夕」川瀬巴水肉筆
 <下>「大日本物産図会 武蔵国浅草海苔製図」
 明治十年 歌川広重 (三代)



去年はこんなニュースがありました！

—本年もよろしく願い申し上げます—



3月

日高勝彦写真展が盛況

日高勝彦氏が大森の海苔生産を撮影した写真展「大森 海苔漁の原風景」(3/18~7/21)を開催。懐かしい風景に多くの方が来場、マスコミの取材も相次ぎました。

4月

新職員2名が仲間入り

新職員2名が仲間入り。海苔の協力者の熱心で優しい指導で、早速、網編みや簀編みなどを習得しています。職員7名が協力し合い、更なる活動の充実を目指していききたいと思います。

5月

来場者50万人セレモニー

5月末に来場者が50万人を越え、5月31日に記念のセレモニーを行いました。

50万人目は近くに住む親子で、大田区長より記念品を贈呈し、大森甚句の披露など盛大に祝いました。

夏休み

子供向けイベントが盛況

夏休み、子供向けのイベントを9回実施しました。また、子供向けクイズ「のり検定」も行い、多くの小学生と保護者が体験や学習を楽しみました。

自由研究の題材として区外から来館する親子もいて、質問や相談に職員が対応しました。

通年

テレビ・ラジオ、雑誌などで紹介

- *1月 フジテレビ「くいしん坊万才」
 - *3月 NHKラジオ「ここはふるさと旅するラジオ」(生放送を約100名が見学)
 - *4月 小学館『おもたメ』小学一年生増刊号
 - *4月 イギリスBBCラジオ
 - *5月 読売新聞社 写真展紹介
 - *11月 朝日新聞 海苔つけ体験紹介
- 他にも多数紹介していただきました。

- *5月 NHK Eテレ「すすめ! キッチン戦隊クックルン」
- ⇒撮影風景



通年

外部のイベントに参加

- *4月 本庁舎「ミュージアム共同展示会」展示
 - *10月 横浜赤レンガ倉庫「東京湾大感謝祭」展示
 - *11月 東京港野鳥公園「里地里山フェスティバル」
 - *11月 新宿小学校「エコフェスタワンダーランド」
- (11月はいずれも貝がらの工作体験)



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」42号

平成27年1月1日発行
編集・発行 認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区 平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347

海苔のふるさと会 会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース43号

海苔の観察事業 今期の海苔網の生育

ニュース41号でもご紹介したふるさとの浜辺での海苔事業。現在、浜辺に網を張り、生育させています。今年張った網は、海苔を肉眼で確認出来ない種付け後の網を張りました。今年の成果として約3年ぶりに海苔の生育が確認できました。今年の冬場の作業を紹介します。

12月5日 網張り

10月に建てた支柱に手縄と呼ぶヒモで網を結び、張る作業です。2つ建てた支柱柵のうち、片方に種付けした冷凍網を5枚重ねで張りました。重ねて張ることで、海苔の種から出る「二次芽」が他の網に根付きやすいそうです。また、作業には東京バイオテクノロジー専門学校の学生6名も参加しました。



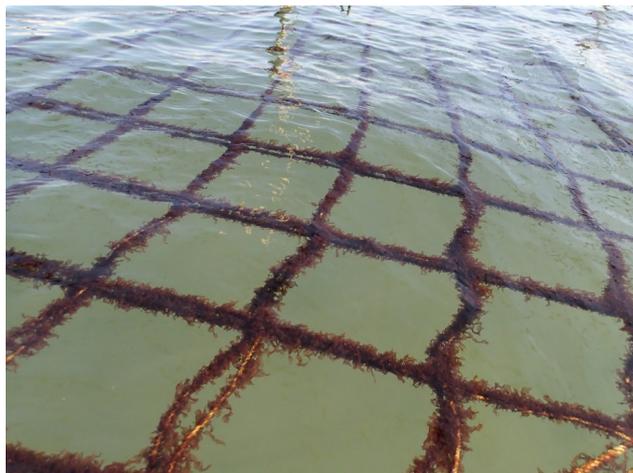
12月8日 竹ヒビに発芽体を確認

竹ヒビの枝を顕微鏡で観察したところ、竹ヒビの枝に海苔の発芽体を確認しました。毎年網やヒビを設置することにより、海苔の種が浜辺に根付いてきているのかもしれない。



12月25日 海苔網の展開

2年前に支柱柵の場所を砂浜近くに移してから初めて、海苔の生育が確認できました。協力者の方々より、海苔が育った網を重ねていると網同士がこすれ海苔が傷んでしまうとの助言があり、1柵に5枚重ねで張っていた網を2柵に分ける作業を行いました。



1月中 海苔網の生育観察

大潮の干潮時に、定期的に海苔網の生育を観察しました。12月以降も順調に成長し、3cmほどまで成長しました。また、竹ヒビからの発芽も確認できました。以前は数cmに育苗した網を張っていましたが、今年は種付け網を張ったため、海の環境に順応できたのではないかと考えています。しかし、その後成長は止まってしまいました。原因として水質や水温の変化、または下記の鳥害が考えられます。

2月10日、11日 鳥除けネットの設置

2月に入り、鳥が海苔を食べているのを確認したため、鳥除けのネットを設置しました。その後、ネットに鳥が近づいた跡があり、効果はあるようです。

2月20日 網の張り替え

その後、成長は確認できず、全ての網を新しい網に張り替えました。生育が確認でき次第、網の高さの調整などの作業を行なう予定です。

今後に向けて

今年は、収穫には至らなかったものの、海苔の成長が確認できたことはとても大きな成果ではないかと感じております。まだまだ課題はたくさんありますが、今年の成果を来年に活かし、また一步前進できればと考えております。(平山)

海苔の出張体験指導と授業

ふるさと館では、外部から海苔つけの指導やかつての東京湾の海苔づくりの説明などの依頼が寄せられます。海苔の本場の信頼に応えられるよう、元生産者の手わざや歴史を伝えていきたいと考えています。

観音崎自然博物館「海苔すき体験」(神奈川県横須賀市)

横須賀市走水は現在の海苔生産地です。その近くにある観音崎自然博物館で初めて海苔すき体験を行うことになりました。そこで、学芸員とボランティアの方が来館し海苔つけの事前研修を行いました。体験当日はふるさと館職員が海苔の刻みの細かさ、海苔と水の割合の調整や、海苔つけの指導をしました。海苔は地元走水産で、道具は事前研修を活かして手作りの道具や身近な道具を利用して行いました。海の近くにある博物館ということで、体験後は地元で採った「〇〇ノリ」と名前の付く海藻(フクロノリ、ハバノリ、タンバノリ、カギイバラノリなど)を見せて紹介してくれました。(吉田)



「海苔つけ」と「海苔すき」
一般的に「海苔すき」と言われていますが、大森では「海苔つけ」と言い、杓の中の生海苔を上から投げつける方法でした。大森については「海苔つけ」、他の地域はそのイベントでの呼び方で表記しています。

お台場学園港陽小学校(東京都港区)

東京都港区のお台場では平成17年から小学校と地域で海苔づくりに取り組んでいます。今回は、東京湾の海苔養殖の歴史について子どもたちに教えてほしいとの要請があり、昔実際に使われていた道具をもって授業をしに行ってきました。

児童は東京湾でのかつての海苔養殖の様子や漁場について話を興味深く聞いたあと、熱心に道具に触れたり、使い方を質問したりしていました。

2月7日には、実際に網から海苔を収穫し、海苔つけを行なったそうです。(小山)



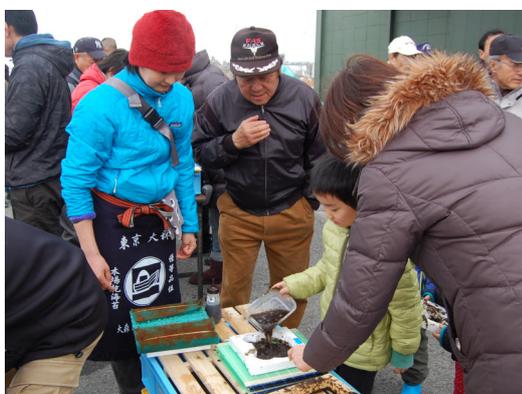
「海と陸の繋がりを味わおう! 海苔すき体験」(大阪府阪南市)

一年間かけて米と海苔を育て、海と陸との繋がりを知るといふ親子対象の企画のうち、海苔すきの回の指導に伺ってきました。会場の大阪府阪南市は、地元の新鮮な海産物の朝市が賑わう町です。

スタッフの方が事前に海苔つけを視察し、手作りの道具を揃えていました。当日、ふるさと館の職員は、海苔つけの指導とかつての東京湾の海苔づくりのお話をしました。

地元といえども、普段、漁業に親しみ理解する機会は少ないようです。参加親子たちは、いい学びの機会になったことでしょう。

(五十嵐)



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」43号

平成27年3月1日発行

編集・発行 認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区 平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347

海苔のふるさと会
会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。